

去る10月24日、安岐町に三浦梅園資料館が開館したのを記念して、講演会が開催され、講演を依頼されたのを期に、久しぶりに三浦梅園の地を訪ねた。

梅園の里は温泉や天文台、宿泊施設も整い、資料館も梅園の遺品や業績が見事に整理され、地元の三浦梅園研究会や梅園学会、安岐町の関係者の方々の長年の努力が実ったことに心から敬意を表したいと思った。

梅園は青年時代に中津の漢学者、**藤田敬所**に学び、敬所に大変気に入られて、養子になることを勧められたほどであった。梅園は敬所の塾で、中津で醸造業を営んでいた**賀来子登**と親友となり、「二豊唱和録」という詩の贈答唱和集を著している。

安永7年(1778年)には再び中津を訪ね、子登に再会した後、藩医の**根来東麟**に会い、天文学や地理学の本を見せてもらい、安永10年(1781年)には再び東麟を訪ねて、東麟の父親・**根来東叔**が作製した日本最初の人骨図「人身連骨真形図」を写し取り、「造物余譚」という著書に記録している。この人骨図の価値を一目して見抜いた梅園の慧眼(けいがん)に驚くしかない。

東叔は火刑に処せられていた二人の人骨を研究、写生し、寛保元年(1741年)に出版したもので、**山脇東洋**による日本最初の人体解剖よりも13年も前のことである。現在この人骨図は中津の村上医家史料館に展示されているが、カラーで描かれたおりなかなか迫力のある図である。